



# 臭化メチル剤を用いない キュウリ栽培マニュアルを策定

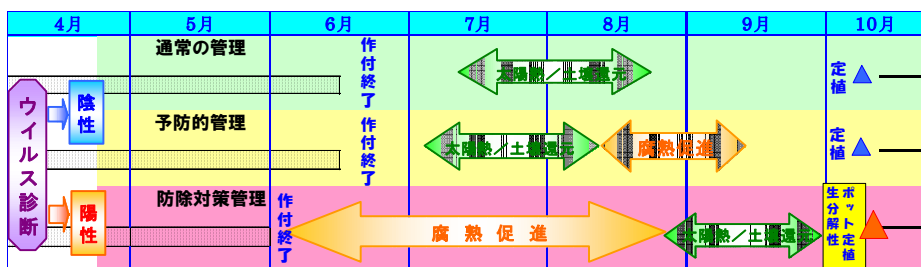
—これで安心してキュウリが栽培できます！—

## 開発の背景・ニーズ

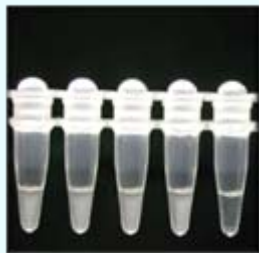
臭化メチル剤は、土壌消毒剤として広く用いられてきました。しかし、オゾン層破壊物質に指定されたことから、2012年限りで土壌病害用途での使用ができなくなります。そこで、臭化メチル剤を用いないキュウリ栽培技術の開発に取り組みました。

## 成果の内容

臭化メチル剤でしか防除できなかった「キュウリ緑斑モザイク病」は、土壌伝染・汁液伝染し、一度発生すると圃場全体のキュウリが枯死することもあるウイルス病です。そこで、前作残渣の腐熟促進技術の導入や生分解性ポットを利用することで、臭化メチル剤を使わないキュウリ栽培体系を確立しました。



### ● RT-LAMP法によるウイルス診断



左4つが陽性・右1つが陰性

RT-LAMP法により診断が容易になり、植物体だけでなく、土からも可能となり、病気の株を抜いてしまった後でも診断ができるようになりました。

### ● 土壌残渣の腐熟促進



腐熟促進の様子  
左：腐熟促進前、中央：1か月後、右：2か月後

3か月間の腐熟促進（牛糞堆肥4 t / 10aを投入して水分調整する）をすることにより、土壌中の残さが分解し、感染リスクが大幅に減少します。

### ● 生分解性ポットの利用



定植1か月後の生分解性ポット

生分解性ポットの利用で定植時の感染リスクが大幅に減少します。また、生分解性ポットを使用しても生育・収量に影響のない栽培方法を確立しました。

## 愛知県農業への貢献

臭化メチル剤を使わず安心してキュウリ栽培をすることができます。さらに化学合成農薬を使わないので環境にやさしい農業が実践できます。

【「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で実施した成果です。】